

# CADCity Ver.12.50 機能アップマニュアル

## 1 - 1

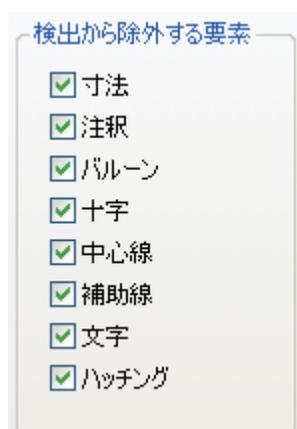
## 作図ナビ

作図ナビに機能を追加しました。

作図ナビツールバーの作図ナビ機能オンオフボタンがトグル式になりました。クリックするごとにオンオフが切り替わります。また、新たに設定呼び出しボタンを追加しました。「システム設定 - 検出 - 作図ナビ」をボタン一つで呼び出すことができます。



寸法・中心線・ハッチング等をシステム設定より検出対象外に指定することが可能になりました。



微速度移動モードの動作が変更になりました。グリッドが距離・角度モードの場合、水平 / 垂直時および既存線分要素の延長上 (ハイライト状態) で SHIFT キーが押された場合は、その時点の角度を保持したまま微速度移動モードとなります。SHIFT キーが離された時点で解除されます。

## 1 - 2

## 表示高速化

本バージョンより SFX 表示が高速表示モードに対応しました。

本バージョンより SFX 表示が高速表示モードに対応しました。



従来モードとは、[ 補助 / システム設定 / 表示 ] で切り替えます。



### 表示速度優先

要素数の多い図面では、[省メモリ優先] モードの2～5倍の高速表示（パソコンの環境により異なる）を実現します。本システムの初期値です。より多くのメモリを使用しますので、お使いのパソコンに1GB以上の搭載メモリがある環境での利用をお勧めします。

表示速度優先モードは、より表示を高速化するため従来版とは別の表示ルーチンを採用しています。このため、線種や線同士の接合部など省メモリ優先モードとは見え方が異なる場合がありますが出図の結果は同じものになります。

### 省メモリ優先

従来（Ver. 11.5 以前）の表示モードです。

[表示速度優先] よりも表示速度は劣りますが、少ない搭載メモリを有効的に利用し、安定した表示を行います。

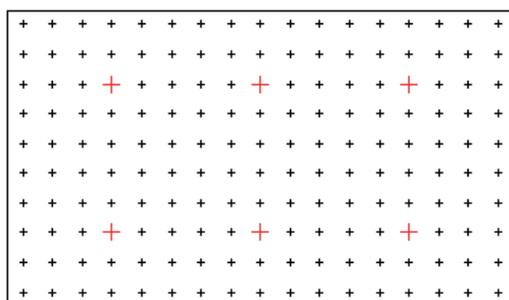
1 - 3

# グリッド表示

本バージョンよりグリッド・目安の大きさ、太さ、間隔の設定ができるようになりました。

5グリッド毎に表示される目安グリッドが十字形状で表示できるようになり、通常のグリッドと同様に大きさ、色も任意に設定できるようになりました。

[ 補助 / システム設定 / 色彩 / グリッド設定 ] または右パネルで設定を行います。



マウス右クリック



## 1 - 4

## CSB 単位切り替え

CSB 上で単位の切り替えが可能になりました。

入力単位は、CSB の単位ボタンをクリックすることにより切り替わります。  
また、座標表示バーから単位入力系を変更することもできます。

- ・長さ = mm → cm → m → km
- ・角度 = ° (度 10 進) → 度 (度分秒) → ra (ラジアン)

単位の変更は、寸法コマンドをのぞくすべてのコマンド CSB に連動します。コマンド単位ではありません。

## 操作方法

CSB のコマンド名称部分をマウス右ボタンでクリックします。ポップアップメニューが表示されますので、  
[単位切り替えを有効にする] にチェックをいれます。



CSB から単位ボタンの部分をマウスでクリックします。

## [長さ系]

左ボタン=前進 mm → cm → m → km

右ボタン=後退 mm → km → m → cm

## [角度系]

左ボタン=前進 度 10 進 → 度分秒 → ラジアン

右ボタン=後退 度 10 進 → ラジアン → 度分秒

座標表示バーの単位系からも切り替えができます。

2-1

シンボル配置

シンボル配置に機能を追加しました。

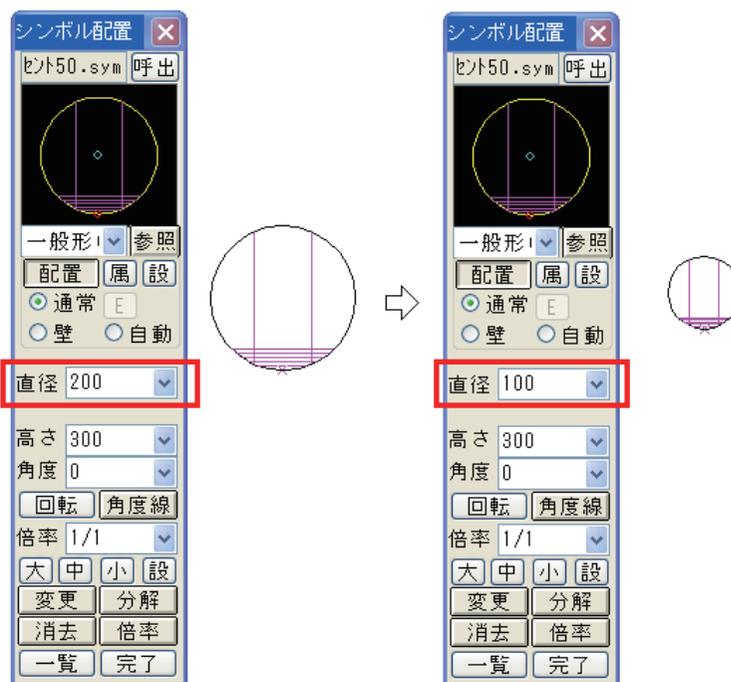
[ ファイル / シンボル配置 ]

新規コマンドのシンボル隠線に対応しました。

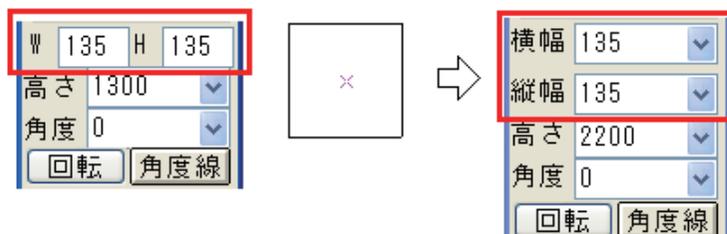
隠線処理したシンボルを参照ボタンで参照した場合、隠線の状態を保持します。  
 隠線処理したシンボルの倍率を倍率ボタンで変更した場合、隠線の状態を保持します。

隠線処理したシンボルを変更ボタンで変更した場合、隠線の状態を解除します。

円形状もパラメトリック可能になりました。



長方形のパラメトリックの入力欄を変更しました。



## 2-2

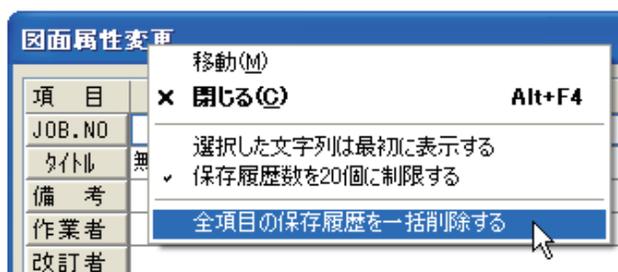
## バインダー属性変更 / 図面属性変更

過去履歴の全項目に対して一括削除が可能になりました。

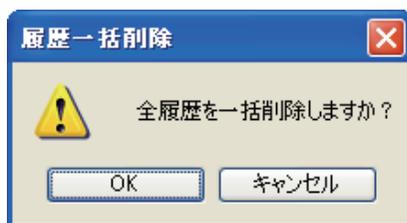
[ ファイル / バインダー属性変更・図面属性変更 ]

表示されている項目だけを残し、履歴情報をすべて削除します。

タイトルバーにカーソルを合わせ右クリックすると以下のポップアップメニューが表示されます。



「全項目の保存履歴を一括削除する」を選択すると以下の確認ダイアログボックスが表示されます。



「OK」を選択すると履歴情報の削除が完了します。

## 2 - 3

## IMGPrinter

本バージョンから Windows VISTA (32bit) に対応しました。

[ ファイル / IMGPrinter PDF・TIFF・XCDF 出力 ]

本バージョンから Windows VISTA (32bit) に対応しました。  
出図コマンドから、PDF ファイルや TIFF 出力が可能です。

## 2 - 4

## 連続出力

出力中に Esc キー / 中止ボタンより出力のキャンセル・中断・継続が選択可能になりました。

[ ファイル / 連続出力 ]

出力中に「ESC」キーを押すと以下のダイアログボックスが開きます。



すべての図面の中止：連続出力をキャンセルします。

現在の図面のみ中止：今現在中断されている図面の出力を中断し、連続出力を再開します。

継続：連続出力を続行します。

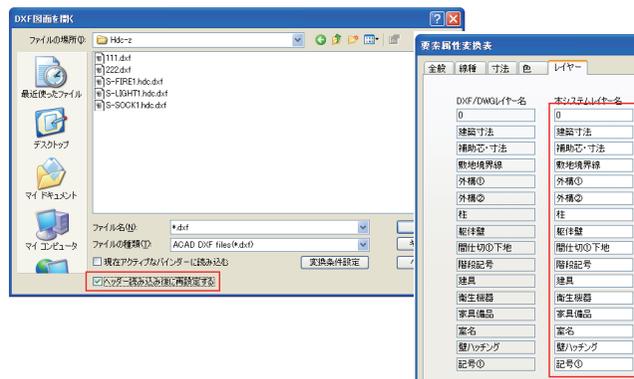
## 2-5

## DXF・DWG 入力

DXF・DWG 入力に機能を追加しました。

[ ファイル / 外部入力 / DXF・DWG 入力 ]

1. 「ヘッダー読み込み後に再設定する」をオンで実行したときに表示される、変換条件設定内のレイヤーパネルで「本システムレイヤー名」の値を入力及び変更出来るようになりました。  
また、レイヤータブでレイヤー表示が 12 行から 16 行に拡張されました。



2. AutoCAD2009 に対応しました。
3. 変換条件設定で表示されるデフォルトの AutoCAD 側線種リスト一覧に表示される線種リストを増やしました。AutoCAD 側で使用出来るデフォルトの線種の数と大幅に違うために起こる未定義線種のエラーを大幅に解消しました。また、線種タブで線種表示が 12 行から 16 行に拡張されました。  
CADCity で用意していない線種が DXF・DWG データに存在した場合、全て実線で変換されるため、定義されていない線種を入力する場合の線種 の設定が可能となりました。
4. イメージで変換される「寸法矢線」の線端形状を CADCity の線端要素として変換するようになり、これまで寸法変換が不可能だった問題や、寸法要素をイメージとして取り込んだ際に塗り潰されたグループ要素となっていた（先端種類によります）問題が解消されました。  
※ 3 点角度寸法、弧長寸法、引出線、折り曲げ寸法、幾何公差の線端変換は現状未対応となります。
5. DXF, DWG データに配置されたブロック図形を CADCity のグループ図形に変換する際に、ブロック名をグループ名として反映するようになりました。

2 - 6

MCAD 入力

Helix の一般部品に対応しました。

[ ファイル / 外部入力 / MCAD 入力 ]

2 - 7

DXF ・ DWG 出力

DWG ・ DXF 出力に機能を追加しました。

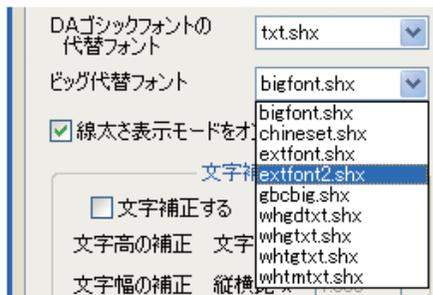
[ ファイル / 外部出力 / DXF・DWG 出力 ]

1. 変換条件設定で表示されるデフォルトの AutoCAD 側線種リスト一覧に表示される線種リストを増やしました。AutoCAD 側で使用出来るデフォルトの線種の数と大幅に違うために起こる未定義線種のエラーを大幅に解消しました。また、線種タブで線種表示が 12 行から 16 行に拡張されました。  
ユーザ定義線種を「CENTER」をデフォルトとし、ユーザ定義が定義されていなくても、設定が可能になりました。補助線の変換ができるようになりました。
2. 過去バージョンにあった「グループをブロックにする」設定が復活しました。ただし寸法グループは含まれません。



次ページへ続く

3. ビッグ代替フォントに「exfont2.shx」を追加しました。日本語用フォント「bigfont.shx」や「extfont.shx」では表現できない外字を使用できます。



2 - 8

## MCAD 出力

MCAD 出力の出力条件設定を全面的に改定しました。

[ ファイル / 外部出力 / MCAD 出力 ]

「基本設定」タブ



「線幅」タブ



「色」タブ



## 3 - 1

## 枠選択

枠選択条件設定ダイアログにヘルプボタンを追加しました。

[ 編集 / 枠選択 ]



## 3 - 2

## レイヤー複写 / レイヤー移動

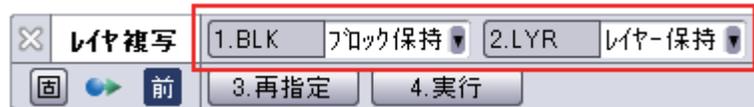
レイヤー複写に機能を追加しました。

[編集 / 複写 / レイヤー複写] [編集 / 移動 / レイヤー移動]

[1.BLK] のプルダウンリストに「ブロック保持」を追加しました。

ブロックを保持した状態でレイヤー複写・移動ができます。

また [2.LYR] のプルダウンリストの「既存レイヤー」を、本バージョンより「レイヤー保持」に名称変更しました。



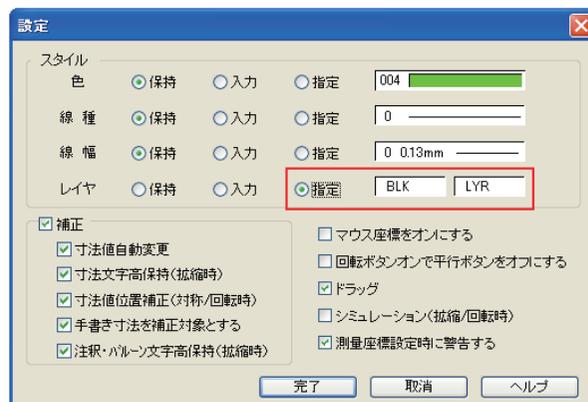
## 【追記】

[編集 / 複写 / 複写] [編集 / 移動 / 移動]

設定のレイヤー指定で「ブロック保持」が可能になりました。

ブロックを保持した状態で複写・移動ができます。(BLK)

またレイヤー保持の名称を変更しました。(LYR)



## 3 - 3

## 枠内消去

グループ内の要素を枠で囲んで削除することが可能になりました。

[編集 / 消去 / 枠内消去]

枠選択 CSB のスタイルボタンが拡張されています。要素に対して、個別選択が可能です。

枠選択 CSB で、[B. スタイル] ボタンを右クリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。



### メンバー個別

指定された要素をグループ内から抽出可能です。グループ要素を抽出したい場合、[F4: 要素] のグループをオンにし、さらにそのグループに含まれる要素タイプ（線分、円など）も指定する必要があります。

### グループ全体

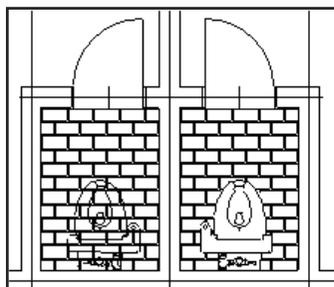
従来のモードです。[F4: 要素] のグループをオンにするだけで、グループ要素全体を抽出することができます。

## 3 - 4

## SY 隠線

シンボルの隠線処理を行う新規コマンドです。

[ 編集 / シンボル処理 / シンボル隠線 ]



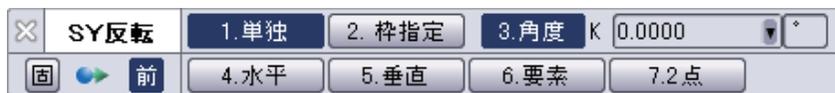
隠線処理前 隠線処理後

## 3 - 5

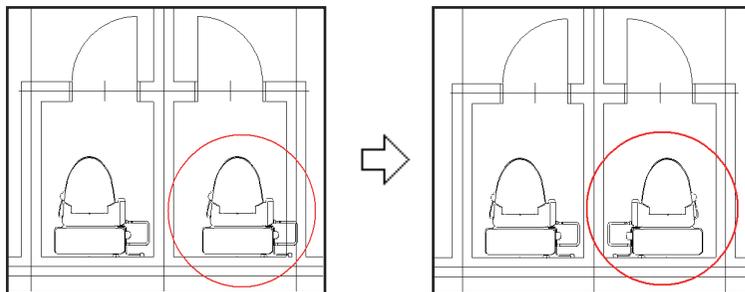
## SY 反転

シンボルの反転を行う新規コマンドです。

[ 編集 / シンボル処理 / SY 反転 ]



反転したいシンボルをクリックします。



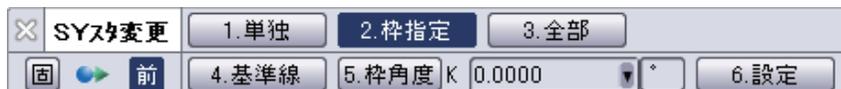
反転したシンボルはシンボル名称、シンボルコードは同じですが、別のシンボルになります。

## 3-6

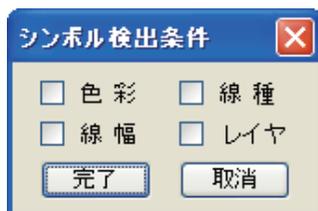
## SYスタイル変更

シンボルのスタイル変更を行う新規コマンドです。

[編集 / シンボル処理 / SY スタイル変更]



設定ダイアログにて検出条件（色彩、線種、線幅、レイヤ）をチェックします。シンボル選択後右クリックで表示される変更スタイルDLBにて変更後のスタイルを設定し、完了ボタンで指定したシンボルのスタイルを変更します。



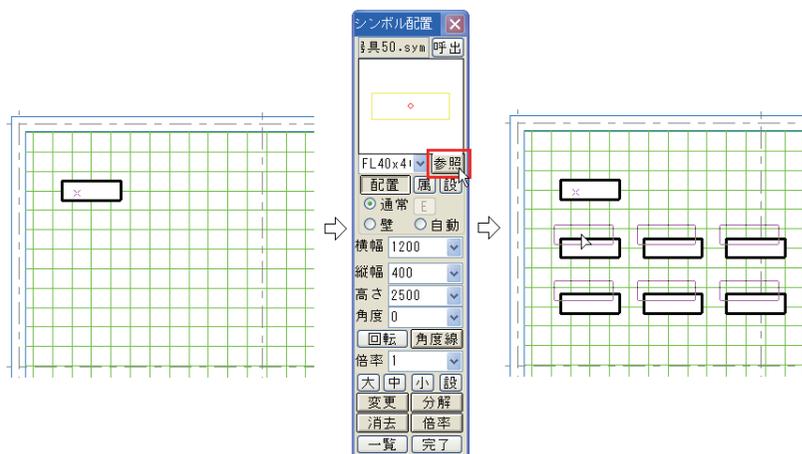
## 3-7

## SY参照

シンボル隠線に対応しました。

[編集 / シンボル処理 / SY 参照]

隠線処理したシンボルを参照した場合、隠線の状態を保持します。



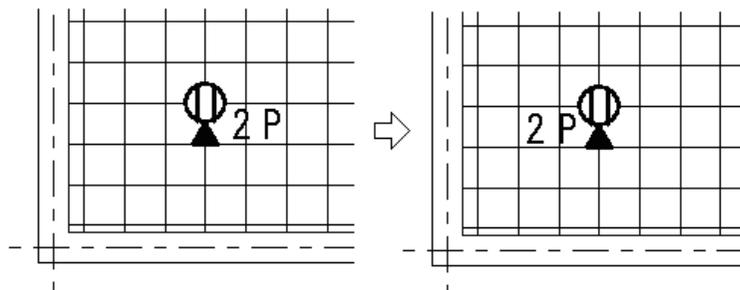
## 3-8

## 添字補正

シンボル隠線に対応しました。

[編集 / シンボル処理 / 添字補正]

隠線処理したシンボルの添字を補正した場合、隠線の状態を保持します。



## 4 - 1

## 間仕切壁

設定ダイアログボックスに塗潰し濃度の設定を追加しました。

[ 建築 / 壁 / 間仕切壁 ]

[5. 構造材] が ON の時に作図される構造材の濃度を 0 ～ 100 の値で指定します。



## 4 - 2

## 構造材

設定ダイアログボックスに塗潰し濃度の設定を追加しました。

[ 建築 / 記号・定型 / 構造材 ]

作図される構造材の濃度を 0 ～ 100 の値で指定します。



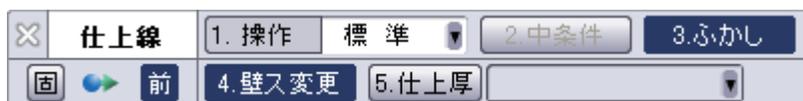
## 4 - 3

## 仕上線

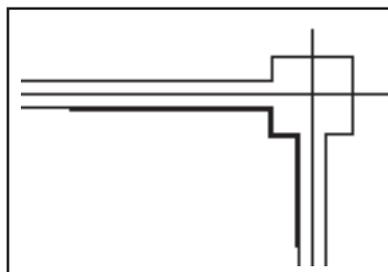
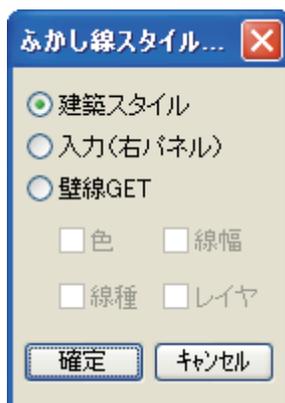
ふかし線のスタイルが設定可能になりました。

[ 建築 / 仕上処理 / 仕上線 ]

CSB の [3. ふかし] 右クリックでスタイル設定 DLB が開きます。



ふかしの線を建築スタイル or 右パネルのスタイルにて作図するか、すでに作図されている壁線のスタイルを参照して作図するかを設定します。



## 5 - 1

## 照度計算書

照度計算書のフォームを一新しました。

[ 電設 / 技術計算 / 照度計算書 ]

器具データの場所: D:\cad1050\option\calc\18\syoudo18b.dat

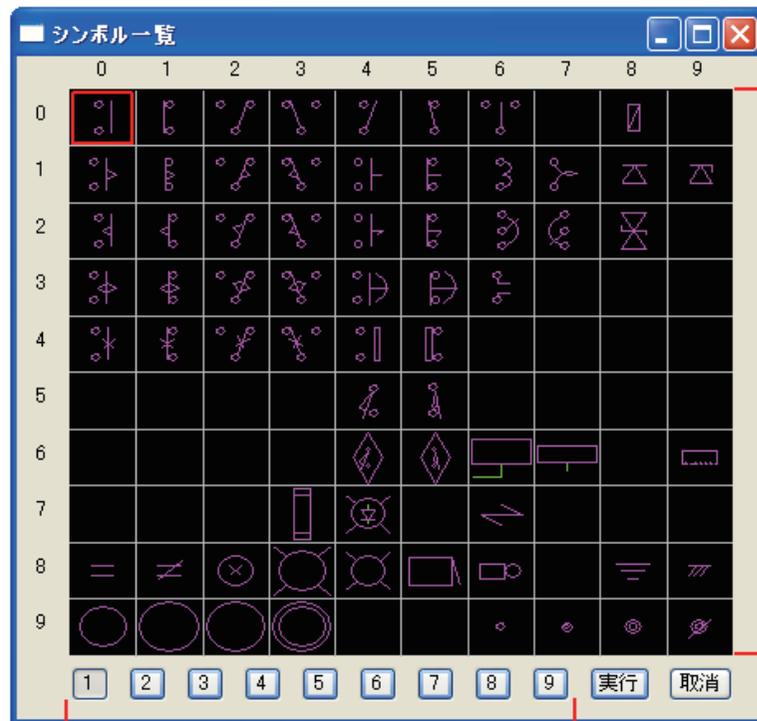
<b>室名称</b> 階数 <input type="text"/> 室名称 <input type="text"/>		<b>照明器具</b> ランプの種類 <input type="text" value="蛍光ランプ"/>																	
<b>標準照度</b> 標準照度:(E) <input type="text" value="200"/> 参照		光束:(F) <input type="text" value="3520"/> lm 参照																	
<b>室の大きさ</b> 間口: <input type="text" value="0.00"/> m 面積:(A) <input type="text" value="0.00"/> m <sup>2</sup> 奥行: <input type="text" value="0.00"/> m 室指数 <input type="text" value="0.00"/> 室の高さ:(Z) <input type="text" value="0.00"/> m 作業面高さ:(h1) <input type="text" value="0.00"/> m 記号 <input type="text"/> 器具下り:(h2) <input type="text" value="0.00"/> m 光源距離:(H) <input type="text" value="0.00"/> m		器具の形状 <input type="text" value="露出形"/> 保守率:(M) <input type="text" value="0.69"/> 器具ランプ本数 <input type="text" value="1"/> 本/台 器具形式 <input type="text"/> 照明率:(U) <input type="text" value="0.43"/>																	
<b>室の反射率</b> 天井 <input type="text" value="70"/> % 壁 <input type="text" value="50"/> % 床 <input type="text" value="10"/> % 参照		<b>参考(最大器具取付間隔[Lm])</b> Lm(O-A)= <input type="text"/> = <input type="text"/> Lm(O-B)= <input type="text"/> = <input type="text"/> Lm= <input type="text"/> = <input type="text"/>																	
<b>備考</b> <input type="text"/>		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">計算</th> <th colspan="2">設計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計算器具台数</td> <td><input type="text" value="0"/> 台</td> <td><input type="text" value="0"/> 台</td> <td></td> </tr> <tr> <td>全ランプ本数:(N)</td> <td><input type="text" value="0"/> 本</td> <td><input type="text" value="0"/> 本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計算照度:(E)</td> <td><input type="text" value="0"/> lx</td> <td><input type="text" value="0"/> lx</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		計算		設計		計算器具台数	<input type="text" value="0"/> 台	<input type="text" value="0"/> 台		全ランプ本数:(N)	<input type="text" value="0"/> 本	<input type="text" value="0"/> 本		計算照度:(E)	<input type="text" value="0"/> lx	<input type="text" value="0"/> lx	
計算		設計																	
計算器具台数	<input type="text" value="0"/> 台	<input type="text" value="0"/> 台																	
全ランプ本数:(N)	<input type="text" value="0"/> 本	<input type="text" value="0"/> 本																	
計算照度:(E)	<input type="text" value="0"/> lx	<input type="text" value="0"/> lx																	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="空白欄"/>																			

## 6-1

## シンボル配置

一覧表のシンボル / ページを上下左右 / 数値キーで選択可能になりました。

[ シーケンス / 作図 / シンボル配置 ]



「↑」「↓」「←」「→」キーで選択

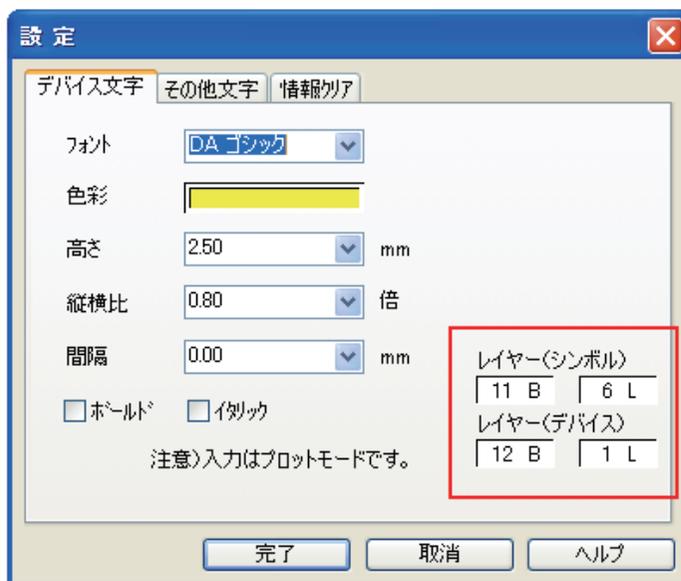
→ テンキー or 1 ~ 9 キーで選択

## 6-2

## シーケンス

要素が入力されるレイヤーを設定ダイアログボックスに表示するようにしました。

[ シーケンス / シンボル配置・デバイス記入・線番手動・線番自動・端子文字・  
クロスリファレンス ]

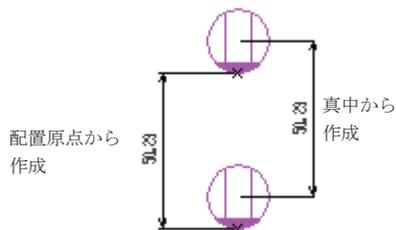
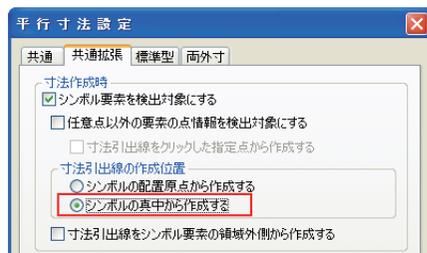


## 7-1

## 平行寸法

平行寸法を改善しました。

[ 作図 / 寸法 / 平行寸法 ]



引出線をシンボルの真中から作成出来るようになりました。  
シンボルの真中とは、シンボル領域の真中です。

## 7-2

## 円寸法

稲妻寸法を改善しました。

[ 作図 / 寸法 / 円寸法 ]

稲妻半径を JIS 規格に則った仕様に改めました。  
これにより、第一折れ線のみ円の中心点へ向かうようになりました。  
それに伴い [C. 設定] のダイアログの稲妻タブに「3. 第一線折れ線と第二線折れ線の角度」が追加されました。



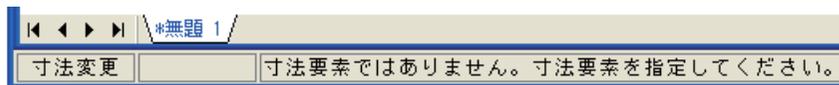
## 7-3

## 寸法変更

メッセージ欄にエラーメッセージを表示するように変更しました。

[ 作図 / 寸法 / 寸法変更 ]

寸法要素以外の要素をクリックするとエラーダイアログボックスが表示されましたが、本バージョンよりメッセージ欄にエラーメッセージを表示するように変更しました。



## 7-4

## 接頭語

[4. 一括] を追加しました。

[ 作図 / 寸法 / 接頭語 ]

[4. 一括] を追加しました。  
複数の寸法を枠選択ができます。右ボタンで確定するまで連続して枠選択を行うことができます。



## 7-5

## 寸法チェック

[9. 漏れ部分] の対象要素に円が追加されました。

[ 作図 / 寸法 / 寸法チェック ]

## 7 - 6

## 注釈

注釈に機能を追加しました。

[ 作図 / 文字記入 / 注釈 ]

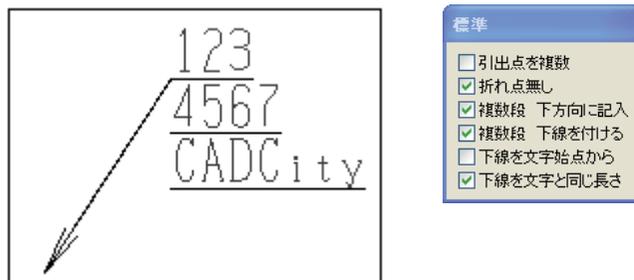
[8. 変更] モードの時に、[2. 中心点] が指定可能になりました。

[2. 中心点] オンで注釈の引出線を変更すると、線端が円・円弧要素上にある場合、注釈の引出線は常に円の中心に向かって移動します。



複数段の文字が入力された時に、文字列に合わせて下線を描くことができるようになりました。サブボックスに追加された「下線を文字と同じ長さ」にチェックを入れることで可能となります。(サブボックスの「下線を文字始点から」にチェックが入っているとき有効)

また、前バージョンまでサブボックスで指定した「コメントを枠で囲う」を [A. 設定] 内に移動しました。



7-7

## バルーン

バルーンに機能を追加しました。

[ 作図 / 文字記入 / バルーン ]

[B. 変更] オン時にバルーン内の文字要素をマウス左クリックで表示できたポップアップメニューを本バージョンでは図面上でマウス右クリックすることでどこでも呼び出せるようになりました。

また、文字要素にカーソルをあわせるとハイライト表示されるようになりました。

▼ 番号変更

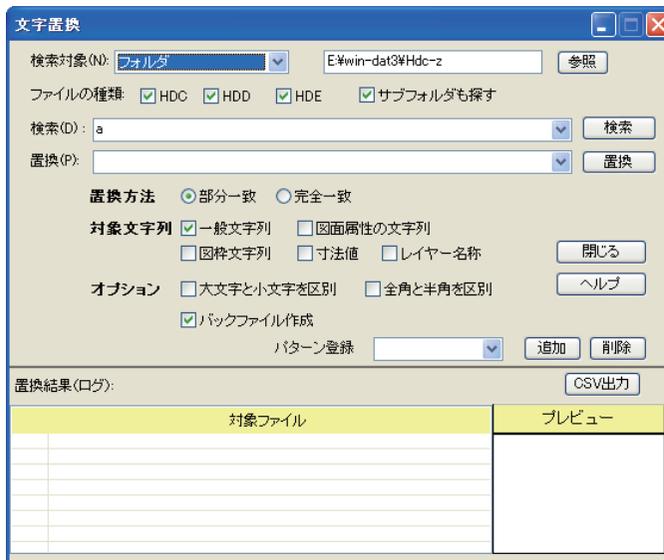
形状変更

## 7 - 8

## 文字置換

複数の図面に対して文字置換を行う新規コマンドです。  
大量にある図面の文字列変換に効果的です。

[ 作図 / 文字編集 / 文字置換 ]



文字置換を行う対象となるファイルの種類は下記の通りです。

#### 開いてるすべての図面

現在開いてるすべての図面を対象とします。

#### 現在の図面

現在アクティブな図面のみを対象とします。

#### フォルダ

任意のフォルダを指定し、その中にある該当の拡張子の図面ファイルがすべて対象となります。サブフォルダまで含めるか指定ができます。

#### 指定のファイル

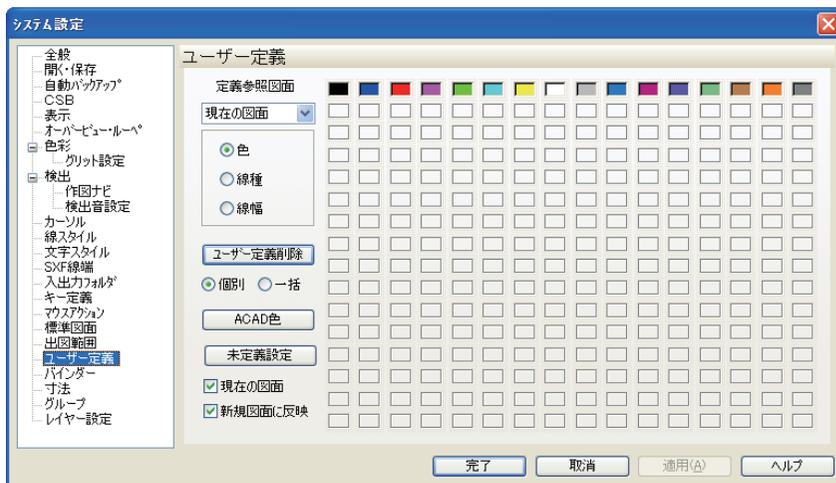
任意のフォルダを指定し、その中の特定ファイルのみを対象とします。

## 8 - 1

## システム設定

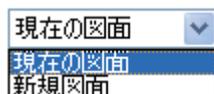
ユーザー定義で新規図面に対して適用される内容を現図面にも適用可能になりました。

[ 補助 / システム設定 ]



### 定義参照図面の指定

色・線種・線幅全てで選択した図面の定義内容へ完全に切り替えます。



#### 現在の図面：

システム設定を起動した際のアクティブ図面の定義内容を表示します。

#### 新規図面：

新規図面の定義内容を表示します。



[ 新規図面 ] と [ 現在の図面 ] に同一定義色・線種・線幅が別番号に登録があった場合でも、要素属性の番号は変わりませんので、変更を適用後に定義した状態が表示が変わります。

また、変更後の定義が変更前より少ない場合に変更を適用すると、定義が無いものは [ 未定義設定 ] に従い表示されます。

定義される図面は [ 新規図面 ] と [ 現在の図面 ] のチェックに依存します。

## 8 - 2

## 環境設定

システム設定から分離しました。

[ 補助 / 環境設定 ]

